

トラック 3

(♪ 街の環境音)

(♪ 以降歩道の環境音)

お姉ちゃん。 お仕事お疲れ様です。

ううん、俺も今来たところです。

…あ、持ちますよ。 重いですよ、それ。 貸してください。

これからは、荷物持ちとして呼び出してくれてもいいですよ。

いつでもどうぞ。

(♪ 足音)

今日はお姉ちゃんのお家にお邪魔させていただけるんですよ。

…楽しみにしてました。

今までこういうことなかったから。

一人暮らしだったんですね。 大変じゃないですか？ 自分で色々するの。

…そっか、いいな。 俺も早く一人暮らししたい。

(何かあるの?)

え？ あ、いや別に、何もないですよ。 早く自立したいなって。

あ…お姉ちゃんの家ここですか？ へえ、綺麗ですね。

俺もアパートですけど、うちはオンボロです。

(♪鍵開ける音)

(「散らかってるけど許して」)

…え、全然綺麗ですよ？ うん…こういう雰囲気好きです。
お邪魔します。

(♪靴の音)

え、靴揃えるのって常識じゃないんですか。
へー、礼儀正しいか…父に似たのかもしれないです。

わあ…女の人の部屋ってこんな感じなんだ。

あ、これ！ 「ちょこイルカ」 じゃないですか！ お好きなんですか？

すごいですよこれ、俺も集めてますけどなかなか出ないレア物ですよ！

えーっ いいなあ…！

(ヒロインに笑われる)

うあ、…これ好きっていう人と初めて出会ったので、ついはいじゃいました…。

そんなに目キラキラしてましたか…？

…うん…、俺はすごい好きなんですけど、周りに共感してくれる人いないので、
嬉しくて。

(「そんなに好きならあげるよ」)

え、そんな、いいですよ、こんなレア物。
お姉ちゃんが大事にしてください。

（ヒロインにココアを手渡される）

あ、ココアですか？

いや、むしろ大好きです！　ありがとうございます。

ソファ座ってもいいですか？

失礼します。

…ええ？　かしこまりますよ。

だってお姉ちゃんは、大事な取引先みたいな人ですから。

普通に仲良く…？

うーん…、できるんでしょうか、俺とお姉ちゃんが。

…援交初めてからですか？

えっと…もう10人は軽く超えてます。

でも、全員一回きりで終わらせてたから、継続で関係持つのはお姉ちゃんが初めてです。

だいたい女の人でした。でも時々男の人も。

（「嫌じゃないの？」）

…別に、お金もらえるなら良いかなって。それだけ。

なんでこんなことしてるのって言われてもな、お金欲しさ以外にないですよ。

なんでって…。

ただの援交相手なのになんでそんなリアルのこと持ち出してくるんですか。

（「あっ とんでもないこと言っちゃった」と焦り、誤魔化すようにヒロインに迫る）

…お姉ちゃん、今日はしょ？ 別にお金いらないから。

もういいじゃん、俺だって限界です。お姉ちゃんだって溜まってますよね？

出会ってから、俺が色々仕掛けてもずっと拒んでる。

それともあれですか。

やっぱり歳離れてるから、俺のこと男に見えませんか。

警戒してないから家に上げられるんですよね。

こうされるかもしれないのに。

（↓押し倒し）

…いいから、ちょっと黙って。（キス）

ねえ、俺とお姉ちゃんって他人ですか？ それともそうじゃないって思ってる？

関係性、お互いはっきりさせておかないと途中から間違えてしまいますよ。

俺とお姉ちゃんは他人です。

これからどんなにつながったとしても。